

無人島で過ごすのに、何を持って行きますか？

小尾 旭

ベートーヴェン9曲の交響曲を一晩に、というコンサートが三枝成彰さんの企画により開催されたのが2003年12月31日のこと、3人の指揮者と2つのオーケストラでした。2004年12月31日には、何と岩城宏之さんがN響メンバーで固めたオーケストラを1人で全曲振りました。「ベートーヴェン全曲を振り終わったら、たとえ倒れても本望だ」との心意気に打たれて、大晦日に聴きに行きました。長丁場なので1杯、2杯やりながら陶然とする中、感動しながら年を越しました。

聴きながら考えた事は、不滅の9曲も結構だが、こんな時だから弦楽四重奏曲を全部聴きたいなあ~との思いでした。年末も押し迫り最後の日ともなれば、新しい年に望みを託すとか、その年を振り返り、あるいは豊かに生きてきた人生の来し方を省みて、誰しも感慨にふけるのではないのでしょうか。こういう時には、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲をまとめて聴くのが、心に響く最上の音楽としてふさわしいのではないかと思った次第です。

タイトルにしました「無人島で過ごすのに、あなたなら何を持っていきますか?」。人間としての精神生活、あるいは生きる上での楽しみのために要るものは各人それぞれでしょうが、何でしょうか? 明治時代に招聘され、東大と上野で講座を持った哲学者・音楽家ケーベル博士はその随筆集に、上記の質問に答えて、「ファウスト」や「神曲」などの他に、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲のスコアがあれば1年ぐらいいは過ごせると記述していました。私ははるか昔にこれを読み、「ベートーヴェンの弦楽四重奏曲」とは一体何なのかと、疑問と探求の念を心にとどめていました。その頃ようやくクラシック音楽を愛好するようになり、ブダペスト弦楽四重奏団の3夜に亘るベートーヴェンチクルスを聴きに行ったりして、その命題はやがて徐々に解消して行きました。

多言を要しませんが、皆様ご存知の如く、ベートーヴェンは交響曲や協奏曲、すべてのピアノソナタなど全部仕上げた後、1824年以降死去する前年まで、後期の弦楽四重奏曲6曲に心血をそそいで完成させました。人生を達観し、諦観し、言わば悟りの境地に至ったかの如き神品といわれる名曲集。年の暮れ、仕事も勉学も一段落し、少しほっとしてゆとりのある時、ベートーヴェンの至高の作品に耳を傾けるのも宜しいのではないのでしょうか。御愛好の皆様への贈物として、前代未聞のこのコンサートを企画致しました。後期の6曲だけでなく、もっと聴きたいというご要望も承っていますが、それは次の機会に検討致したいと考えております。

私も無人島で過ごすなら、全曲のCDを宝物として持って行く事でしょう。

(ミリオンコンサート協会代表)



古典四重奏団／ベートーヴェン後期弦楽四重奏曲集

L.v. Beethoven Late String Quartets ● まさに現代の生んだ奇跡のクアルテット (グラモフォンジャパン)

 <p>Vol. I ewcc-0012 ¥2,625(税込)</p>	 <p>Vol. II ewcc-0013 ¥2,625(税込)</p>	 <p>Vol. III ewcc-0014 ¥2,625(税込)</p>	 <p>Vol. IV ewcc-0015 ¥2,625(税込)</p>
弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 作品127 String Quartet No.12 in E ^b op.127	弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 作品130 「大フーガ」作品133付き String Quartet No.13 in B ^b op.130 with "Grand Fugue" op.133	弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調作品131 弦楽四重奏曲第16番へ長調作品135 String Quartet No.14 in c [#] op.131 String Quartet No.16 in F op.135	弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132 String Quartet No.15 in a op.132

ewc ホームページ <http://www.ewe.co.jp/>